

お絵描きの憂鬱^{ゆううつ}—分類学の研究と作図の関係—

自然・環境評価研究部 系統分類研究グループ

山田 量 崇



分類学の研究と作図

分類学の論文は、種の特徴や近縁種との違いを示す図を必要とします。図には写真や絵が用いられますが、伝統的に線画（生物画）が重視されてきました。線画は、写真では分かりにくい特徴を選び出し、重要な部分を強調して表現できるからです。私は絵が得意ではないので、研究を始めた学生時代に多くの練習を重ねました。論文に使える絵が描けるまで、相当な時間と労力を費やしました。

写真か絵か

現在ではカメラ機器や撮影技術が発達し、わざわざ絵を描く分類学者は少なくなってきました。しかし、微小で複雑な構造をもつ部分（例えば昆虫の交尾器）を理解するには、やはり線画が有用です。私は、昆虫の全形図は写真で示し、交尾器などの部分図をスケッチすることで、形態情報を補足しています。

作図は役に立つけれど

それでも絵を描く作業は未だに憂鬱^{ゆううつ}です。20年以上絵を描き続けていますが、どうしても慣れません。

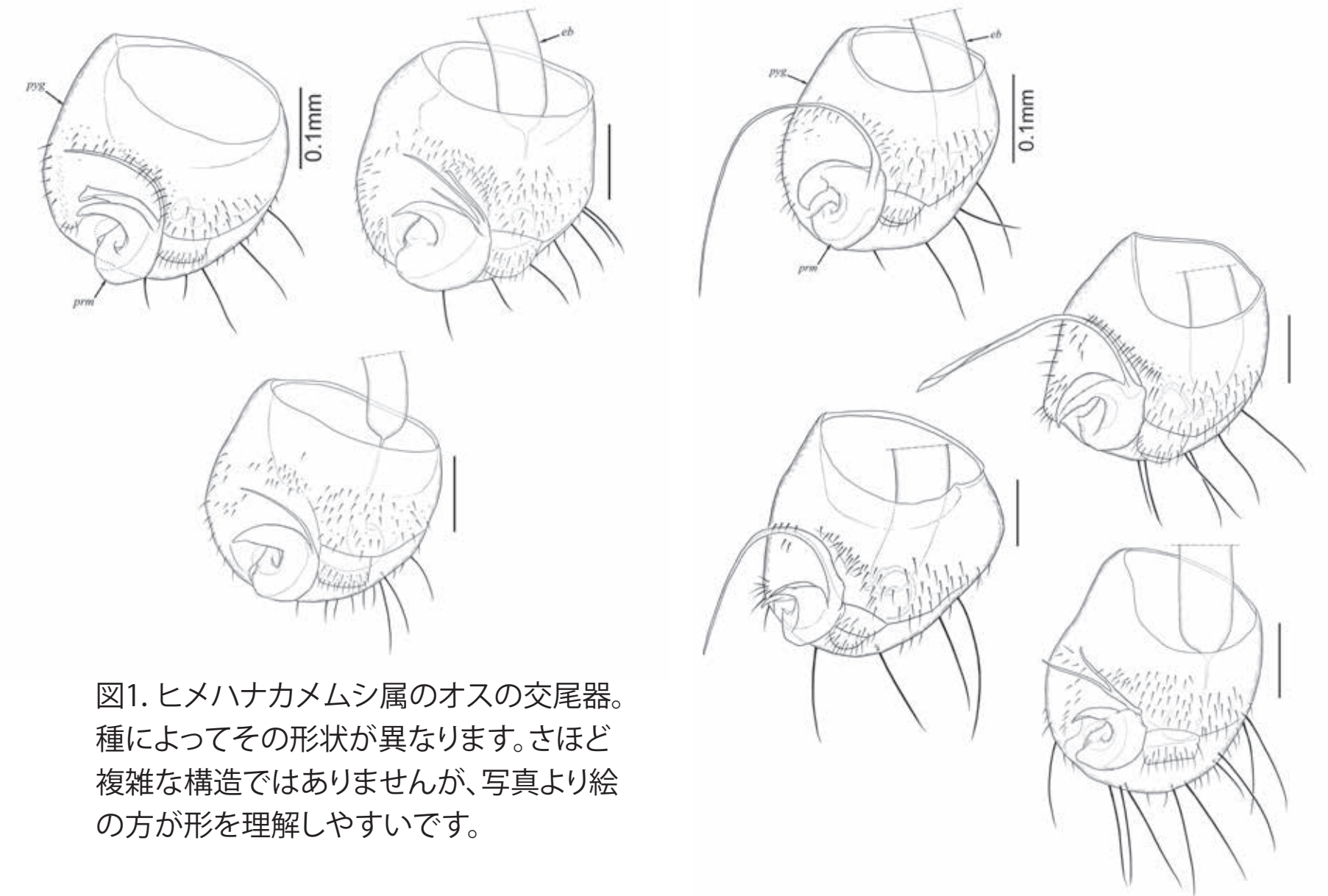


図1. ヒメハナカメムシ属のオスの交尾器。種によってその形状が異なります。さほど複雑な構造ではありませんが、写真より絵の方が形を理解しやすいです。

